

モザンビーク「パリ国際切手展」(1982.6.11 発行)



<ふたりのタヒチ女>ゴーギャンの代表作

ポール・ゴーギャン
Paul Gauguin

- 生誕 1848年6月7日
 ■ フランス共和国 パリ
- 死没 1903年5月8日 (54歳没)
 ■ フランス領ポリネシア マル
 キーズ諸島
- 国籍 ■ フランス
- 著名な実績 絵画、彫刻、陶芸、エングレー
 ビング
- 運動・動向 ポスト印象派、ボン=タヴァン
 派、総合主義、クロワソニス
 ム、象徴主義、プリミティヴィ
 スム
- 影響を与えた ナビ派の画家たち、エドヴァル
 芸術家 ド・ムンク、パブロ・ピカソ、
 ジョルジュ・ブラック

ポール・ゴーギャン (ウジェーヌ・アンリ・ポール・ゴーギャン)

坂本 祥三

ウジェーヌ・アンリ・ポール・ゴーギャン (1848 年 6 月 7 日～1903 年 5 月 8 日) は、フランスのポスト印象派の画家である。

【その生涯】

1848 年	二月革命の年にフランスのパリで生まれた。
1851 年	パリを離れペルーのリマに移り、7 歳の時にフランスのオルレアンに移り住む、23 歳の時にパリに戻る。
1884 年	コペンハーゲンに移る
1885 年	再びパリへ
1886 年夏	ブルターニュ地方のボン＝タヴァンの画家コミュニティへ、ここで初期の印象派風の作品から脱皮する。
1887 年	パナマそしてマルティニーク島へ
1888 年	南仏のアールに移り、ファン・ゴッホとの共同生活を送る。
1891 年	最初のタヒチに滞在を始める。ゴーギャンの傑作の多くは、この時期以降に生み出されている。
1893 年	フランスに帰国
1895 年 9 月	2 度目のタヒチに訪問する。タヒチで良い粘土を入手できなかったことから、陶芸作品を続けることができなくなっていた。また、印刷機械がなかった。
1901 年 9 月	タヒチを去り、マルキーズ諸島ヒバ・オア島の政庁のあるアトゥオナに生活の中心は移る。
1903 年 5 月 8 日朝	最後の地となったアトゥオナで死亡した。

彼の人生は、前半は、家族・知人の助けで生活をするようになった。ゴーギャンは、画家として生計を立てようと思っていたが、現実には厳しく困窮してしまふ。1891 年 2 月パリで売り立てが、成功して、タヒチに渡る。

作品が売れ始めるが、まだ生活は厳しい。自分の作品を作成するために生活の場を移して行く人生でトラブルもたえなかった。

絵の修行に関しては、ゴーギャンが絵を描くことを始めたのは、株式仲買人としての仕事を始めた 1878 年頃から余暇に絵を描くようになった。

彼が住むパリ 9 区には、印象派の画家たちが集まるカフェも多く、ゴーギャンは画廊を訪れたり、新興の画家たちの作品を購入したりしていた。カミュ・ピサロと知り合い、日曜日にはピサロの家を訪れて庭で一緒に絵を描いたりしていた。ピサロは、彼を他の画家たちに紹介した。1882 年、パリの株式市場が大暴落し、絵画市場も収縮した。その影響をうけ、ゴーギャンの収入は急減し、彼は絵画を本業とすることを考えるようになった。

ゴーギャンは、印象派に至る伝統的なヨーロッパの絵画が余りに写実を重視し、象徴的な深みを欠いていることに反発していた。これに対して、アフリカやアジアの美術は、神話的な象徴性と活力に満ちあふれているように見えた。折しも、当時のヨーロッパでは、ジャポニズムに代表されるように、多文化への関心が高まっていた。

ゴーギャンの作品は、フォークアートと日本の浮世絵の影響を受けながら、クロワゾニズムに向かって行った。クロワゾニズムとは、批評家エドゥアール・デュジャルダンが、ベルナールやゴーギャンによる、平坦な色面としっかりした輪郭線の特徴とする描き方に対して付けた名前であり、中世のクロワゾネ（七宝）の装飾技法から来ている。

彼の作品は、形態と色彩のどちらが優位に立つのではなく、両者が等しい役割を持つ統合主義に向かっていく。

ゴーギャンの死後にその作品群は、ポール・セザンヌに「中国の切り絵」と批評されるなど、同時代の画家たちの受けは悪かったが、没後、西洋と西洋絵画に深い問いを投げかけたゴーギャンの孤高の作品群は、次第に名声と尊敬を獲得していった。

（引用参考は、ウィキペディア フリー百科事典）